



通過時間*が20分から12分に短縮しました

～国道49号水原バイパス全線開通から半年後～

※新潟市江南区木津ICから阿賀野市鴨深交差点方向

令和7年6月8日(日)に全線開通した国道49号水原バイパス(阿賀野市寺社～同市下黒瀬)における開通半年後の交通状況と整備効果をお知らせします。

全線開通半年後の交通状況と整備効果

1 交通の転換

旧国道49号の市街地部では全線開通前に比べ交通量が約37%減少しました。
そのうち大型車の交通量は約54%減少し、バイパス全線開通により、バイパスに交通が転換されました。

2 整備効果

- ① 所要時間が約8分短縮し、通勤、物流、観光振興に貢献
- ② 旧国道49号市街地部の急ブレーキ件数が最大69%減少し、安全な走行環境を確保
- ③ 防災拠点や指定避難所へのアクセス性が向上し、阿賀野市の防災機能強化に貢献



お問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所

調査課長 田中 みわ(たなか みわ) (内線451)

新潟市中央区南笹口2-1-65
電話 025-244-2159(代表)<https://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/>
FAX 025-246-7763

HP



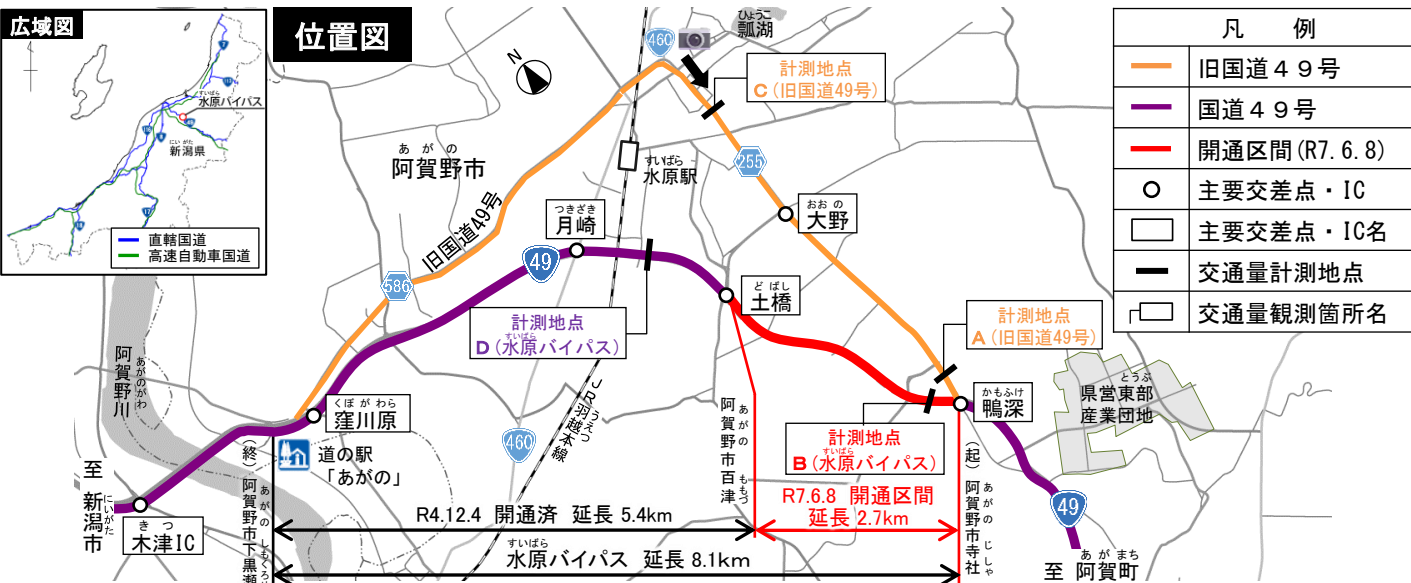
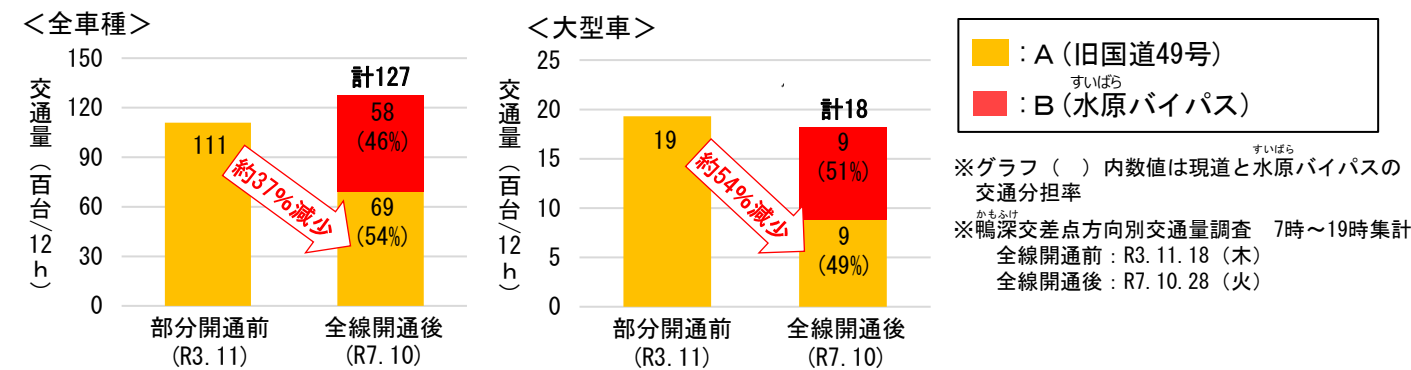
X

○旧国道49号市街地部（A地点）の交通量は全線開通前と比べて約37%減少し、そのうち大型車の交通量は全線開通前と比べて約54%減少しました。

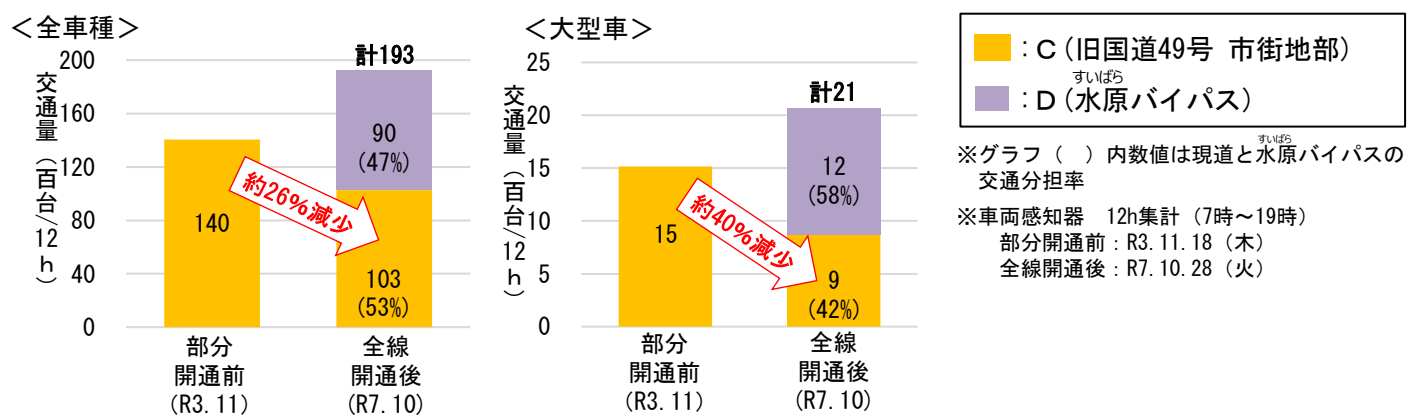
○旧国道49号市街地部（C地点）の交通量は部分開通前と比べて約26%減少し、そのうち大型車の交通量は部分開通前と比べて約40%減少しました。

○水原バイパスに交通が転換したことで市街地部の交通混雑が緩和し、周辺企業の就業者からは、水原地区の安全性向上を実感する声がありました。

【計測地点A（旧国道49号）とB（水原バイパス）の12h交通量変化】



【計測地点C（旧国道49号）とD（水原バイパス）の12h交通量変化】



【周辺企業の方の声 (R7.11)】

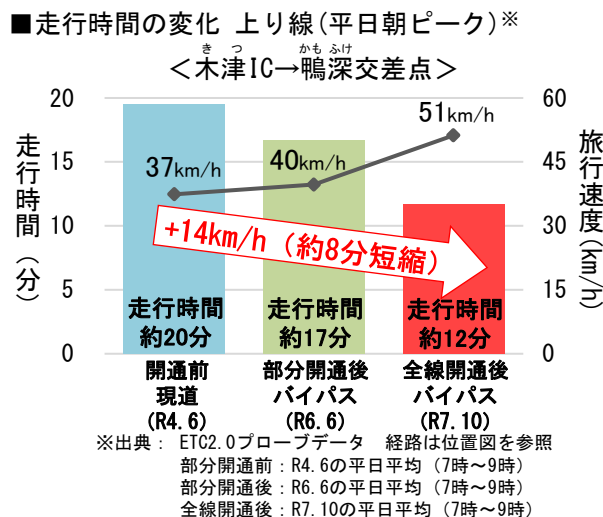
・大型車を運転する際、子供も歩いている旧道を通らずに済むようになったため、安心して運送できるようになりました。



【効果①】所要時間の短縮による 通勤、物流、観光振興への貢献

別紙-2

- 全線開通後、水原バイパスの旅行速度は部分開通前の現道に比べて**約14km/h(約38%)上昇**し、通勤時間帯の走行時間が木津IC→鴨深交差点までの区間で**約8分短縮**しました。
- 全線開通後、木津IC～鴨深交差点間における**時間信頼性が向上**し、製品輸送にかかる到着時間を予測しやすくなったことにより、**物流の円滑化に貢献**しています。
- 周辺企業の就業者からは、**通勤時間や輸送時間の短縮**を実感する声が寄せられました。
- 観光地までの所要時間の短縮により、**地域の観光振興にも寄与**しています。



部分開通前の通勤時間帯の状況 ①



全線開通後の通勤時間帯の状況 ①



全線開通後の通勤時間帯の状況 ②

【周辺企業・市役所職員・観光施設の方の声 (R7.11)】

周辺企業

- ・水原バイパスを通り本社と工場を行き来する際、部分開通時に比べて所要時間が短縮され、スムーズに行き来できるようになりました。
- ・水原バイパスを通り工場から安田方面の取引先を行き来する際も時間短縮されました。

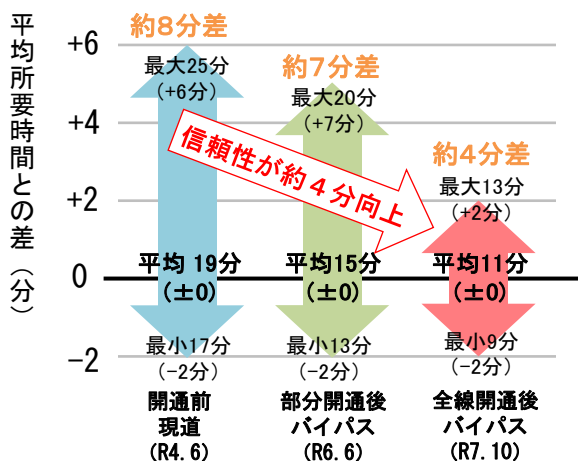
市役所職員

- ・全線開通後は移動時間が短縮しアクセスが良くなったため、安田地区への観光客が増加しています。

道の駅あがの

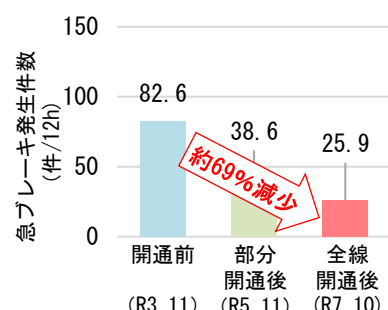
- ・福島県方面から来るお客様から、来やすくなったという声があがっています。
- ・全線開通により安田の観光地へのルート案内がしやすくなりました。
- ・全線開通後に、地域の事業者から商品の出店依頼が増えました。

■ 時間信頼性の変化※ ＜木津IC⇄鴨深交差点＞



○周辺企業の就業者からは、**安全性の向上**を実感する声が寄せられています。

凡 例	
	旧国道49号
	国道49号
	開通区間(R7.6.8)



集計対象区間
 安野町：北本町交差点～安野町交差点間
 水原小学校入口交差点周辺：
 交差点中心から100m手前までの区間
 (旧国道49号上り・下り)

- ・旧道が空いたことで、子どもたちの通学が安全になったと感じます。

○国道４９号は緊急輸送道路に指定されており、水原バイパスすいばらの開通により、市の防災拠点である道の駅「あがの」や指定避難所へのアクセス性が向上したことで、防災機能の強化に貢献しています。

凡 例	
●	防災拠点・指定避難所



凡 例	
	第1次緊急輸送道路
	第2次緊急輸送道路



水原バイパスを通行する緊急車両

出典:阿賀野川水系阿賀野川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)(H28.5)
新潟県緊急輸送道路図(R6.3)
阿賀野市地域防災計画(R6.3)

- ・阿賀野市の防災拠点(道の駅あがの)、指定避難所(水原総合体育館)、物資輸送拠点(候補地 水原屋内体育館)などの災害時における拠点へのアクセスがしやすくなりました。
- ・バイパスによる交通分散により、水害・雪害時における水原の街中への交通集中による渋滞を軽減できるようになり、防災面の道路機能向上に繋がると考えています。